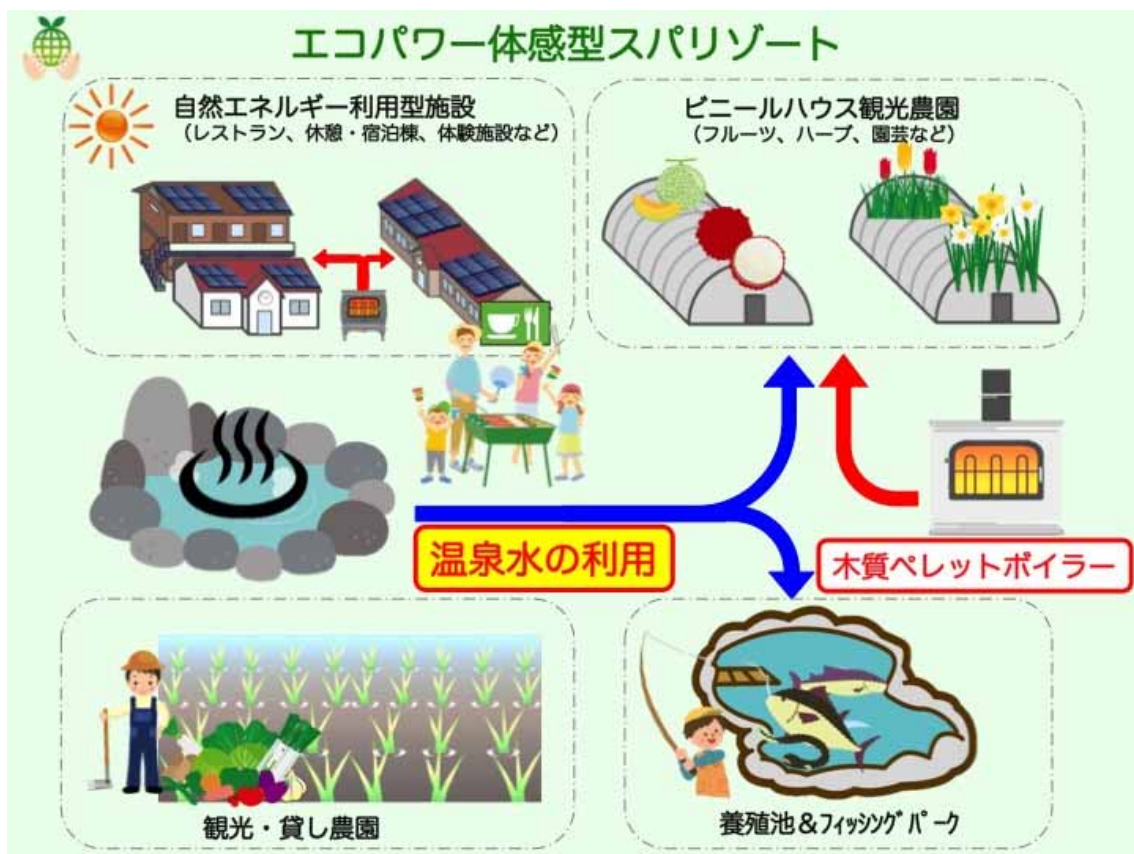


* 休館中の温泉施設をエコパワー体感スパリゾートに

宮崎県小林市にある休館中の温泉施設を、**温泉水の利活用**をはじめとした再生可能エネルギー利用型の複合施設として再展開するアイデアプランです。

味わい、楽しみながら、また体験しながら、資源の循環や再生可能エネルギーについて感じ、考えてもらえるような施設を目指します。

【A温泉：総面積 3010坪（9950㎡）】



【概要】

源泉温度 52.5 の温泉水の利活用に加え、木質バイオマス燃料や太陽光といった再生可能エネルギーにより、施設に関わるエネルギーの自給をメインテーマとしています。

当初の取り組みとして、温泉水を利用した（一部木質ペレットボイラーで補います。）ビニールハウス農園と魚の養殖、太陽光と木質ボイラーによる電力供給と冷暖房設備を備えた屋内外施設、バイオマス肥料による農園を整備し、観光や地域に開かれた形での運営を行ないます。

レジャーや農作業などでかいた汗を温泉で流し、心地よく疲れを癒せるような場の提供を目指します。

【A温泉：泉質など】

52.5 429.5 ㎖/min
マグネシウム・ナトリウム
カルシウム
一炭酸水素塩・塩化物温泉

エネルギーについて

* 温泉水の利用

- ・ ビニールハウス内に温泉水の配管をめぐらし、ハウス内を加熱します。常時高温でないと育たない作物を中心に栽培を行ないます。
- ・ 温泉水の成分調整を行ない、海の高級魚養殖を目指します。（トラフグ、ヒラメなど）

* 木質ペレットボイラー

- ・ 主にビニールハウス内の加熱における補助装置として使用します。

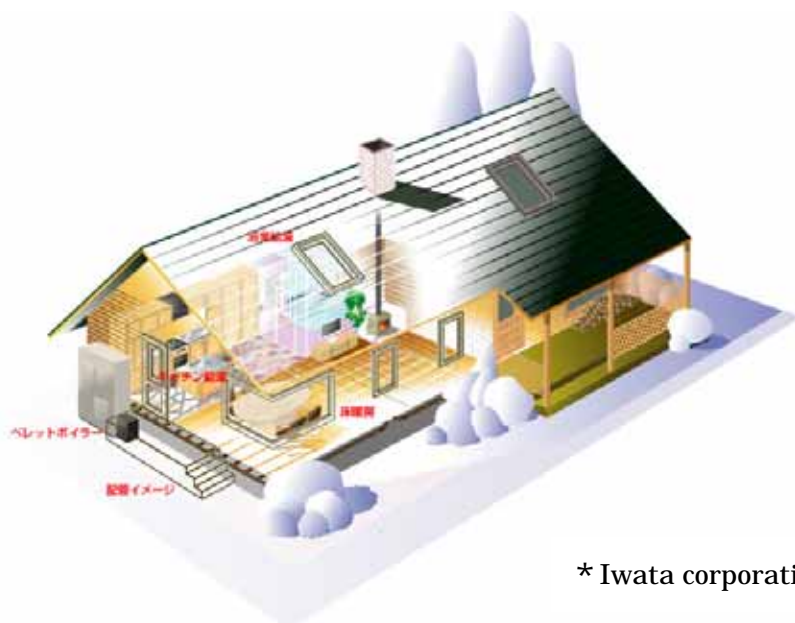
* 太陽光発電

- ・ 施設内に電力を供給します。

* 小型木質ペレットボイラー、薪ストーブ

- ・ 屋舎の暖房に用います。（薪ストーブは、調理器具、インテリアとしての用途もあり）

【木質ペレットボイラーの使用イメージ】



* Iwata corporation ウェブサイトより

農園について

* ビニールハウスにかかるランニングコストを軽減

- ・ 温泉水をメインの加温装置として使用することで、ボイラー使用量を抑えます。
- ・ ハウス内を常に高温に保っておかなければならない高級品目を多く栽培します。
(マンゴー、ライチなど)

* 地熱配管による温度管理は、重油による暖房やヒートポンプに比べて、病害虫の発生が少ないとも言われていますので、コスト面以外にもメリットがあると考えます。

* バイオマス肥料による有機栽培

- ・ 施設内外で出される生ごみや、木質ペレットボイラー、薪ストーブなどからの灰を利用してバイオマス肥料を作り、農園で使用します。

* カーボンニュートラル

- ・ 温泉水と植物由来燃料の利用によって、持続可能性を考慮した生産を行ないます。

* 観光農園・貸農園として

- ・ ビニールハウスは観光農園がメイン、露地栽培農園では貸農園も行ない、自前で収穫した作物を施設内でも調理して食べる事が出来るようにします。

養魚施設について

* 海の高級魚を山の中で養殖

- ・ 温泉水の成分調整を行ない、山の中での高級魚の養殖を目指します。
(トラフグ、ヒラメなど)

話題性もあり、近隣の淡水魚養魚施設との競合も避けられます。

* トラフグの養殖に関する事例として、養殖期間の短縮やフグ毒が生成されないなどのメリットが挙げられています。

* 山の中で海釣りができ、その場で食べられる。

- ・ 釣り堀としての区画を設け、釣った魚が施設内でも食べられるようにします。

屋舎について

* 電力やあたたかさを自給

・ 太陽光発電により屋舎内の電力を自給し、冬場は木質ペレットボイラーによる床暖房や、薪ストーブで、優しいあたたかさを提供します。

* 屋舎をCLT(クロス・ラミネイテッド・ティンバー)工法で建てる考えもあります。

* とったモノがその場で食べられる。

- ・ 収穫した野菜や釣り上げた魚などを施設内で調理(レストランや自分でバーベキューにするなど)して、食べられるようにします。

* さまざまな体験

- ・ 自然をテーマにした、いろいろな体験が気軽に出来るようにします。

温泉について

* 源泉かけ流しの温泉で

- ・通常の温泉浴としてだけでなく、施設内で遊んだり作業したりして楽しんだ後の心地よい疲れを、源泉かけ流しの良質な温泉で癒してもらえたらと考えます。
雄大な霧島連山を借景とした露天風呂は格別だと思えます。

【終わりに（目標や展望など）】

『どこまで、自給自足ができるのか？』を追求していくことが、このプロジェクトの大いなる目標であり、さまざまな展望がそこから開けていくものと考えます。

情報や知識に「知恵」を加えて“生きる楽しみ”を拡げていける施設にしたいと思えます。そのような施設を「外に開く」ことによって、多くの人に見て、感じてもらえる形で、エネルギー、食料、地域資源といった事について捉え、考えてもらえる「きっかけ作りの場所」となれたら、

近隣には、県内外にお客さんを持つ名物農家さんもあれば、できれば農地を手放したいと考えている農家さんもいます。当初の取り組みが軌道に乗った際には、このような農家さんや、地域の生産者の方々と連携しながらの展開や規模の拡大ができるのではないかと考えています。

酪農、畜産、駆除された野生鳥獣の活用、低水力発電、BDF 燃料、電気自動車、各種イベントなどなど.....

頭の中では「夢アイディア」がどんどん広がります。

以上